旅行者動向

（財）日本交通公社独自の「JTBF 旅行者動向調査」（毎年 10 月実施）の結果をもとに発行している旅行者データ集。日本人の観光レクリエーション旅行の実態と希望、旅行に対する意識について、さまざまな切り口から分析を行っている。

観光レクリエーション旅行の実態については家族旅行や友人旅行などのセグメント別に旅行内容を詳細分析。また今後希望する旅行については 32 の旅行タイプ別に地域別ランキングを集計している。

2008 年版では、年間旅行支出 20 万円以上のいわゆる高額支出層に着目し分析した。また「旅行先での現地情報収集の実態」についても特集。

2009 年版は、08 年 10 月実施の調査をもとに 2009 年 8 月に発行。「旅行をしなかった理由」に景気低迷が色濃く反映される結果が見られた。

旅行者動向 2008

目　次

第１章　旅行市場の全体像
1.1　旅行市場の構造
1.2　観光レクリエーション旅行の実態
1.3　特定の旅行スタイルの経験と参加意向

第２章　旅行先別にみる旅行市場の実態
2.1　都道府県別にみる観光レクリエーション旅行の実態
2.2　観光地別にみる旅行の経験と意向

第３章　行ってみたい旅行
3.1　行ってみたい旅行タイプ
3.2　行ってみたい旅行先

第４章　旅行に対する意識
4.1　旅行の動機
4.2　情報収集源

特　集
特集１　旅行先での現地情報収集の実態
～「交通手段」で異なる情報源、旅先での情報収集拠点は「宿泊施設」
特集２　年間旅行支出からみた国内旅行マーケットのトレンド
～高額支出層にみられる「家族回帰」と「遊びの多様化」

- **担当者**　黒須宏志・川口明子・相澤美穂子
- **頒布料**　5,000 円（本体 4,762 円）
- A４判 118 ページ

旅行者動向 2009

目　次

第１章　旅行市場の全体像
1.1　旅行市場の構造
1.2　観光レクリエーション旅行の実態
1.3　特定の旅行スタイルの経験と参加意向

第２章　旅行先別にみる旅行市場の実態
2.1　都道府県別にみる観光レクリエーション旅行の実態
2.2　観光地別にみる旅行の経験と意向

第３章　行ってみたい旅行
3.1　行ってみたい旅行タイプ
3.2　行ってみたい旅行先

第４章　旅行に対する意識
4.1　旅行の動機
4.2　情報収集源

- **担当者**　黒須宏志・川口明子・相澤美穂子
- **頒布料**　5,000 円（本体 4,762 円）
- A４判 101 ページ

旅行年報

直近１年間の旅行・観光市場の動きと業界を取り巻くあらゆるデータ、出来事を(財)日本交通公社の研究員が専門分野ごとに執筆を分担し取りまとめた。「旅行年報 1981」以来、日本人の国内･海外旅行、外国人の訪日旅行、観光産業、国内観光地、観光政策などさまざまな角度から旅行・観光市場に関するデータとトピックを集め記録、毎年発行している。

旅行年報 2008

目　次

■第Ⅰ編　旅行者の動き
Ⅰ-1　2007年と2008年の旅行市場
Ⅰ-2　日本人の海外旅行
Ⅰ-3　訪日外国人旅行

■第Ⅱ編　観光産業の動き
Ⅱ-1　旅行業
Ⅱ-2　宿泊業
Ⅱ-3　運輸業
1 鉄道
2 道路交通
3 航空

■第Ⅲ編　観光地の動きと観光政策
Ⅲ-1　観光地
1 温泉観光地　6 都市観光･コンベンション
2 山岳・高原リゾート　7 観光施設・テーマパーク
3 海浜レクリエーション　8 農山漁村観光
4 ゴルフ場　9 自然公園･世界遺産
5 アウトドア活動　10 着地型旅行の商品化と販売
Ⅲ-2　観光政策

■資料編
資料-1　地域別整備動向
資料-2　旅行年表
資料-3　付属統計表

● 担当者(編集)　塩谷英生・雨宮三津子
● 定　価　6,300円（本体6,000円）
● A4判82ページ

旅行年報 2009

目　次

■第Ⅰ編　旅行者の動き
Ⅰ-1　2008年と2009年の旅行市場
Ⅰ-2　日本人の国内宿泊旅行
Ⅰ-3　日本人の海外旅行
Ⅰ-4　訪日外国人旅行

■第Ⅱ編　観光産業の動き
Ⅱ-1　旅行業
Ⅱ-2　宿泊業
Ⅱ-3　運輸業
1 鉄道
2 道路交通
3 航空

■第Ⅲ編　観光地の動きと観光政策
Ⅲ-1　観光地
1 温泉観光地　6 都市観光･コンベンション
2 山岳・高原リゾート　7 観光施設・テーマパーク
3 海浜レクリエーション　8 農山漁村観光
4 ゴルフ場　9 自然公園･世界遺産
5 アウトドア活動　10 着地型旅行の商品化と販売
Ⅲ-2　観光政策

■資料編
資料-1　地域別整備動向
資料-2　旅行年表
資料-3　付属統計表

● 担当者(編集)　川口明子・塩谷英生
● 定　価　6,300円（本体6,000円）
● A4判84ページ

Market Insight

日本人海外旅行マーケットの構造的な変化とその要因を詳細に解説したレポートで、最新の市場動向をカバー。(財)日本交通公社の独自調査をもとに、変化の下に働く中長期的ダイナミズムを明らかにしている。

Market Insight 2008　日本人海外旅行市場の動向

目　次

はじめに

要約

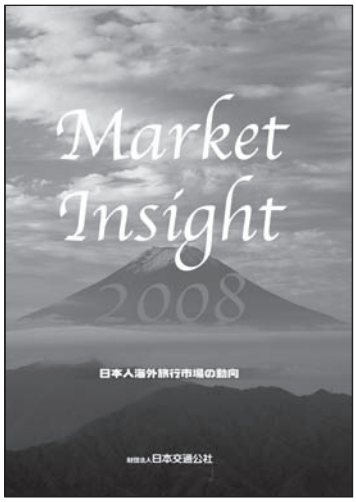
第１章　2007年の日本人海外旅行マーケット動向
2007年の海外旅行マーケット／休暇観光目的のマーケット／性・年代別旅行者数／回復に未だ遠い若年層市場／海外旅行消費額／海外旅行泊数／方面別旅行者数／今後の希望行き先／満足度・再訪希望率／セグメント別のマーケット構成／同行者・旅行手配形態

第２章　方面別マーケット動向
ヨーロッパ／北東アジア／東南アジア／北米／オセアニア／ハワイ、グアム、およびその他のデスティネーション

第３章　市場動向予測
2007年のマイナス成長と市場の減少傾向の要因／2008～2009年のマーケット見通し／中長期的見通し

第４章　マーケット動向指標
主な経済社会指標および旅行取扱額／市場規模／出国率／方面別マーケット／旅費／旅行泊数／予約方法／情報源／宿泊施設 ／旅行タイプ／月別出国者シェア／同行者／旅行者の世帯収入／旅行者の階層帰属意識／満足度・再訪希望率／希望する旅行

附属資料



- **担当者**　黒須宏志・相澤美穂子
- **定　価**　10,500円（本体10,000円）
- A4判75ページ　※英語版も制作

Market Insight 2009　日本人海外旅行市場の動向

目　次

はじめに

要約

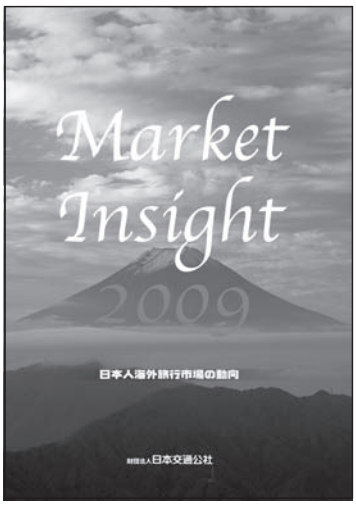
第１章　2008年の日本人海外旅行マーケット動向
2008年の海外旅行マーケット／休暇・観光目的のマーケット／性・年代別旅行者数／海外旅行消費額／海外旅行泊数／方面別旅行者数／今後の希望行き先／満足度・再訪希望率／セグメント別のマーケット構成／同行者・旅行手配形態

第２章　方面別マーケット動向
ヨーロッパ／北東アジア／東南アジア／北米／オセアニア／ハワイ、グアム、およびその他のデスティネーション

第３章　市場動向予測
経済危機の影響／新型インフルエンザの影響／中国方面の動向／中長期的見通し

第４章　マーケット動向指標
主な経済社会指標および旅行取扱額／市場規模／出国率／方面別マーケット／旅費／旅行泊数／予約方法／情報源／宿泊施設／旅行タイプ／月別出国者シェア／同行者／旅行者の世帯収入／旅行者の階層帰属意識／満足度・再訪希望率／希望する旅行

附属資料



- **担当者**　黒須宏志・相澤美穂子
- **定　価**　10,500円（本体10,000円）
- A4判73ページ　※英語版も制作

観光実践講座 講義録

平成 19年度観光実践講座 講義録
「環境、景観をいかした地域主体の観光を考える」

平成 19年度に開催された観光実践講座の講義録。メインテーマは「環境、景観をいかした地域主体の観光を考える」。

“五感文化構想”という新しい切り口からの観光開発、地域文化を生かした温泉地の新たな挑戦、住民地域を巻き込んでの湖岸観光地づくり、環境問題を発端とする住民主役の景観まちづくり、野生生物保護から始まった生活環境と農林業の見直し、など従来の観光開発論にとらわれない幅広い観光実践論となっている。6月に行われた観光基礎講座の基調講演も収録。

- 担当者　久保田美穂子・丸山のどか
- 頒布料　3,150 円（本体 3,000 円）
- A4 判 84 ページ

目　次

講義 1: 地域主体の観光の時代 ～持続可能な観光を目指して～
（財）日本交通公社 常務理事 小林英俊

講義 2:「五感に訴える」～観光立町に取り組む富士河口湖町の実践的観光戦略～
富士河口湖町 観光課長 渡邊武博氏

講義 3: 地域の遺伝子を受け継ぐ人々へ ～足りないのは資金じゃない～
大分県県会議員／大丸旅館 代表取締役社長 首藤勝次氏

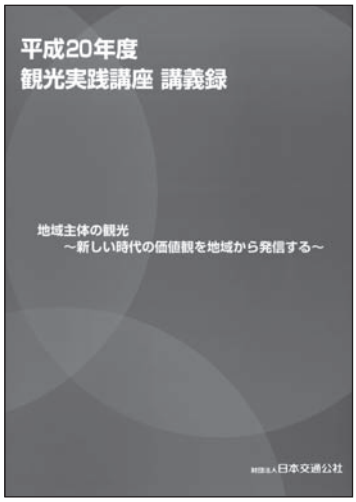
講義 4: 観光政策と地域再生の現場をつなぐ ～阿寒湖温泉 7年の取り組み～
（財）日本交通公社 研究調査部長 梅川智也

講義 5: まちを商品化したら駄目、まちを想う人を増やすことが大切
近江八幡市 市長公室 室長 吉田正樹氏

講義 6: コウノトリがつなぐ地域の生業と環境、そして観光
豊岡市コウノトリ共生部 コウノトリ共生課 課長 佐竹節夫氏

講義 7: 観光は総合政策！ ～松本市観光戦略本部の組織づくり・人づくり～
松本市 安曇支所 支所長／前観光戦略本部長 赤廣三郎氏

平成 20年度観光実践講座講義録
「地域主体の観光 ～新しい時代の価値観を地域から発信する～」



平成 20年度の講座テーマも引き続き「地域が主体となった観光づくり」。主体的な“地域の生き方”が観光を通じて情報発信されることが持つ、大きな意味に注目した。豊かな暮らし方や生き方について問いかける地方発の新たな価値観が、今、日本全体を覆っている閉塞感を打ち破るのではないだろうか。

講義内容は、若手が取り組んだ新しい地域連携、小さな町が取り組んだ地域自立、温泉地が取り組んだ地域再生、地域の固有性・精神性のプロデュース、地域の営みのプログラム化など幅広い観光実践論となっている。6月に行われた観光基礎講座の基調講演、教育旅行を新たな視点で取り入れた観光戦略論についても講義 7として収録。全体を通じ、改めて今、観光に取り組む意義やメッセージが各所に込められている。

- 担当者　久保田美穂子・雨宮三津子
- 頒布料　3,150 円（本体 3,000 円）
- A4判 88 ページ

目　次

目次は、73ページの講座プログラム参照

観光文化

旅や観光の文化に関する(財)日本交通公社の機関誌。年6回、奇数月の20日に発行。

時代の動き、社会のニーズの把握に努め、情報提供・提言、意見・研究発表等の発信を編集方針としている。毎号特集を組み、第一線で活躍されている研究者・実践者の方が執筆。ほかにも連載を組み、幅広い視点から「観光文化」に光を当てている。

- 発行人　新倉武一
- 編集人　外川宇八
- 頒布料　1,470円（税込み）
- B5判32ページ(基本)

目　次

第187号（2008年1月20日発行）
特集：上質な日本
○ものづくりの原点から明日の日本を考える／政所利子
○ラグジュアリートラベルの現状と展望／福永浩貴
○上質な時間は冬の京都にあり —冬の外国人観光客誘致キャンペーン Kyoto Winter Special の展開／西村健吾
○上質な日本を守る民の取り組み／松居秀子

第188号（2008年3月20日発行）
特集：足尾銅山 —その歴史に学び保存活用を期する
○足尾銅山、世界遺産登録への道／永井護
○足尾銅山と近代技術／鈴木淳
○自分史の中の足尾銅山／小野崎敏
○足尾銅山緑化の歩み —取り組みの歴史、現状と展望／神山英昭

第189号（2008年5月20日発行）
特集：瀬戸内海の風土と文化復興
○瀬戸内海再発見 —よみがえる風景／西田正憲
○風景芸術の現場としての琴平山再生計画／田窪恭治
○直島に見るアートが呼び覚ます地域の力と風景／秋元雄史
○夕日でオンリーワンのまちづくり／若松進一
○瀬戸内海を人々の交流の海に／妹尾達樹

第190号（2008年7月20日発行）
特集：里山と観光立県千葉
○房総の里山の生物多様性と人々のかかわり／中村俊彦
○カントリーサイド・ツーリズム —国際観光資源としての里山景観／ケビン・ショート
○いすみ地域の観光文化 —いすみ再発見を例に／市原淳田
○もっと生き生き千葉の里山／金親博榮
○里山・里海はみんなのがっこう／遠藤陽子

第191号（2008年9月20日発行）
特集：ツーリズム新時代
○観光から歓交・感幸へ、そして発光へ —次世代ツーリズムの創出に向けて／石森秀三
○ツーリズム大国・英国に学ぶ —英国観光政策の概要と日英比較から見たわが国観光政策への示唆／井上健二
○ビジット・ワールド・キャンペーン(VWC)の挑戦とその課題／田端俊文
○新しい"たび"を育む国土と社会を創る —「『観光立国』下の『観光』の低迷」を打破するために／梅川智也

第192号（2008年11月20日発行）
特集：愛しの富士山
○富士山世界文化遺産登録を目指して —富士山に育まれた信仰の歴史／清雲俊元
○「富士山の美術」の変容 —山梨県立美術館・特別展「富士山 —近代に展開した日本の象徴（シンボル）」から／平林彰・和田佐知子
○「観光立県しずおか」の空の玄関口「富士山静岡空港」の開港 —静岡県の「観光新時代」に向けて／出野勉
○広域連携による国際観光振興 —富士箱根伊豆国際観光テーマ地区の場合／古谷健一郎
○富士山の自然の魅力と価値を語り伝える／渡辺長敬

第193号（2009年1月20日発行）
特集：横浜開港150周年
○ペリー来航と横浜開港 —歴史遺産を訪れ、日本の近代化の原点を振り返る／西川武臣
○外国人が見た・書いた・描いた YOKOHAMA ／宮野力哉
○文化芸術創造都市の形成と開港百五十周年／今井信二
○アイ ラブ ヨコハマ／バーリット・セービン

第194号（2009年3月20日発行）
特集：日本のこころ 桜文化
○桜、その日本のこころ／小川和佑
○さくらサミットと桜文化の醸成／福井良盟
○日本列島の春を彩る多様な桜／佐野藤右衛門
○弘前城の桜 —その歴史・現況と栽培管理の挑戦／小林勝
○荘川桜物語を今に引き継ぐ／大井哲郎

第195号（2009年5月20日発行）
特集：漲（みなぎ）れ！ 静岡のお茶力
○静岡茶、日本一への足取り／中村羊一郎
○技術史を中心とした茶業発展の百年／中村順行
○緑茶を世界に普及させるために／白井満
○「静岡の新たなお茶文化」の芽生え／相川香

第196号（2009年7月20日発行）
特集：ジオパークジャパン
○驚異の日本列島 —地質と景観の成り立ち／平朝彦
○ジオパークとは何か… —日本型ジオパークへの提言／矢島道子
○糸魚川ジオパークの魅力… —その地質学的特性と歴史・文化／竹之内耕
○島原半島ジオパーク —地球に親しみ、人間生活とのかかわりを考える／杉本伸一

第197号（2009年9月20日発行）
特集：山岳宗教都市・高野山 —その美と歴史文化
○高野山の「魔力」／五十嵐敬喜
○高野山の歴史と密教美術の神髄／山口浩司
○弘法大師が伝えた聲明／井川智雄
○森林セラピー世界遺産高野山 千年の森／楠博州

第198号（2009年11月20日発行）
特集：平城遷都1300年 —日本の歴史と未来を考える
○東大寺大仏と東アジアの平和／保立道久
○正倉院宝物と大仏 —聖武天皇・光明皇后の愛と悲しみ／西山厚
○「平城遷都1300年祭」の開催に向けて —はじまりの奈良、めぐる感動／福井昌平
○「なら国際映画祭」を通じて奈良の魅力を世界に発信／河瀬直美

温泉地再生

地域の知恵が魅力を紡ぐ

宿泊客数減少に悩みつつも、意欲的な取り組みで勢いを取り戻す温泉地が増えてきた。本書では、阿寒湖、知床ウトロ、別府、赤倉、野沢、湯布院、鷺宿、土湯、下呂、四万、城崎の各温泉地の先進的な動きを紹介し、各地のリーダーたちが地域の知恵を生かして独自の魅力を創出していく姿勢から、次代の温泉地が生き残る術を探る。

（財）日本交通公社研究員の自主研究の成果として学芸出版社より発行（45ページ参照）。

- 定　価　2,100円（本体 2,000円）
- 執　筆　久保田美穂子
- 発　行　学芸出版社 2008年 6月
- A5 判 208 ページ

目　次

はじめに―本書の目的

1章　各地で生まれる元気で面白い温泉地
TYPE 1　旅館業も地域の一員、住民とともに地域活動
1. 北海道阿寒湖温泉／みんなでやろうよ！ 地域の魅力アップで滞在型温泉に
2. 北海道知床ウトロ温泉／ 真冬のオーロラファンタジー　継続が地域を変えた
3. 大分県別府温泉／別府八湯再生へ 「オンパク」前夜、地域住民による胎動
TYPE 2　温泉地の原点を振り返り、新たな工夫で
4. 新潟県赤倉温泉／「親切温泉宣言」 「温泉ソムリエ」―ユニークなアイデアで原点回帰
5. 長野県野沢温泉／老舗こそ新しく 伝統と科学で温泉の魅力を表現
6. 大分県湯布院温泉／歩いて楽しい温泉地へ 原点回帰への実験
TYPE 3　顧客の声に耳を傾け、市場の変化に対応
7. 岩手県鷺宿温泉／小さな宿も輝ける 地元食材でブランドづくり
8. 福島県土湯温泉／「あらふどをこく」精神で実践 積み重ねが町を変える
9. 岐阜県下呂温泉／業種を超えれば見えてくる ―創る楽しみ歩く楽しみ
TYPE 4　外からのまなざしを取り入れ、その知恵を活かす
10. 群馬県四万温泉／「外の目」「外の声」で活気創出 アートで気づく地域の魅力
11. 兵庫県城崎温泉／駅は玄関、道路は廊下で宿は客室 町全体が一つの宿

2章　リーダーに聞く温泉地の生きる道―その先の温泉地
1. これからの温泉地は国際競争力。 良い宿づくりが地域を変える ㈱星野リゾート社長 星野佳路さんに聞きました
2. 温泉地の原点　“誇りと憧れの環流”をとりもどそう 大丸旅館社長・大分県議会議員 首藤勝次さんに聞きました
3. 時代を先読み、温泉価値をエクステンション 草津町町長 中澤敬さんに聞きました
4. 温泉も温泉地も混迷の時代　未来は創る 天空の森・忘れの里 雅叙苑主人 田島健夫さんに聞きました
5. 自前で時代に適応　日常生活を楽しくする温泉 常磐興産㈱取締役 坂本征夫さんに聞きました
6. オンパクは集客イベントじゃない ―温泉資源で産業をおこす NPO 法人ハットウオンパク代表理事・ホテルニューツルタ社長 鶴田浩一郎さんに聞きました
7. 理屈と感性の融合が観光を深くする NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構理事長・阿寒グランドホテル社長 大西雅之さんに聞きました

3章　温泉地の新しい社会的意義を求めて
1. 温泉地の経験価値を上げる
(1)温泉地から“分かれた”温泉 ―泊まらない温泉と泊まる温泉
(2)コモディティ化には経験価値戦略
(3)温泉地が回復させるもの
2. 吹き始めた、温泉地・温泉旅館への追い風
(1)オピニオンリーダーは宿泊施設での滞在を大切にする
(2)海外旅行経験が日本文化回帰を促す
(3)地域への“想い”が観光客を惹き寄せる
3. 温泉地再生の原動力は地域内にある
(1)誇りと憧れの環流を
(2)「ここが好き」を集めて“誇り”にする～「地域一体」は結果
(3)こめた想いが文化に熟す
(4)魅力的な温泉地空間を再び
(5)時代の価値を読みとる直感力と澄んだ心を

おわりに

観光まちづくり

まち自慢からはじまる地域マネジメント

観光まちづくりの考え方と実践方法を、①まちづくりと観光の相違と共通点、融合の可能性の解説、②歴史を生かし、多様性を引き出し、まちの魅力を高めてきた10の実践例の紹介、そして、それらに共通する地域の宝を自慢し、資源化し育てていく、③地域経営(人材、組織、計画のマネジメント)のあり方の3本柱で具体的に解説。

(財)日本交通公社は編集協力および原稿の一部執筆を担当した。

- 編　著　西村幸夫(東京大学教授)
- 編集協力　(財)日本交通公社
- 執　筆　梅川智也・朝倉はるみ・吉澤清良・岩崎比奈子・石山千代
- 発　行　学芸出版社 2009年2月
- 価　格　3,150円 (本体3,000円)
- A5判 285ページ

目　次

まえがき

part 1 観光まちづくりを考える ―総論編
1章　観光まちづくりとは何か
　ーまち自慢からはじまる地域マネジメント
2章　まちづくりから観光へ
　1節　「まちづくり」から「観光」への接近
　2節　観光とまちづくりの境界線を超えた取り組み
　3節　市民によるまちづくりと観光
3章　観光からまちづくりへ
　1節　これまでの観光地づくりの系譜
　2節　観光と地域の産業振興
　3節　観光地におけるまちづくりの課題

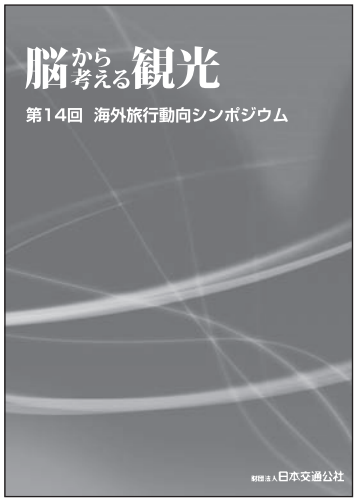
part 2 観光まちづくりの実践
4章　歴史的なストックを活かす
　1節　0からのスタート、そしてトップリーダーへ
　　～肥前浜宿
　2節　創造的に歴史を生きる ～鯖街道熊川宿
　3節　有鄰館の保存再生からファッションタウンへ ～桐生
　4節　地域ぐるみの観光資源マネジメント ～生野
5章　多様な可能性を引き出す
　1節　生活と観光が隣り合わせの「蔵ずまい」のまち
　　～喜多方
　2節　「おわら風の盆」を支える観光まちづくりの「ふところ」
　　～越中八尾
　3節　赤煉瓦倉庫の多様な再生活用で街のイメージを一新
　　～舞鶴
6章　まちの魅力を高める ―温泉地の再生
　1節　「湯の町」の観光まちづくり ～草津温泉
　2節　80年続くクアオルトへの取り組み ～由布院
　3節　地元の熱意と外部ノウハウの協働 ～阿寒湖温泉

part 3 持続可能な観光まちづくりのために
7章　持続可能な観光まちづくりの担い手たち
8章　これからの観光推進組織・体制のあり方
9章　観光計画と地域マネジメント
10章　観光の視点から考えるまちづくりの課題

あとがき

脳から考える観光

第14回 海外旅行動向シンポジウム



09年度「第14回海外旅行動向シンポジウム」の企画過程で得られた研究成果を採録集と合わせ、取りまとめて発行したもの。

シンポジウムの特別講師は、脳科学者の茂木健一郎先生。

メインテーマは「“脳”から考える“楽しい”の本質がカギだ！」。

クオリアやセレンディピティを理解し大事にすることで、日本の観光地や旅行はもっと良くなる。茂木先生からは大きなヒントをいただいた。

また、旅を通じた生涯教育プログラムを企画している大社充氏からは大人の“学び”を学んだ。わき上がる“新しい力の実感”や“達成感”にカギがある。

会場を教室に見立てた、谷和樹先生の模擬授業も丁寧に再現。観光が小学校の社会科授業を生き生きと変えた。

なぜそうなのか――。心的・脳科学的に、また体験的に考察を試み、「提言」「研究レポート」「研究後記」に取りまとめた。

- 担　当　小林英俊・久保田美穂子
- 価　格　2,000円（本体1,905円）
- 4判 64ページ

目　次

◆シンポジウム特別講演　採録
「旅のクオリア・観光地のクオリア」（脳科学者 茂木健一郎氏）

◆提言
クオリア観光のすすめ（小林）

◆研究ノート１　シニア層の“学び”の本質について考える
～エルダー旅倶楽部「初夏の月山講座」に参加して（久保田）

◆シンポジウム　採録
パネルディスカッション「学びがエンターテインメントに！　～楽しく刺激する潜在欲求」
（玉川大学准教授 谷和樹氏／ NPO法人グローバルキャンパス理事長 大社充氏）

◆研究ノート２
脳から考える観光立国教育の面白さ（久保田）

◆研究後記
「脳科学研究から考える観光、旅行産業へのヒント」